

音楽科学習指導案

I 題材 ようすをおもいうかべて②

II 考察

1 題材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

曲想と音色の表れ方との関わりについての理解
曲想に合った表現をするために必要な技能

②思考力・判断力・表現力等

聴き取ったり感じ取ったりして音楽を捉え、
様子を思い浮かべながら、歌唱や器楽を工夫
したり、音楽を味わって聴いたりする力

③学びに向かう力・人間性等

感性豊かに様子を思い浮かべながら音楽に親しむ態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現(1)ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。

イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。

ウ(イ) 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能

(2)ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと。

イ(イ) 楽器の音色と演奏の仕方との関わり

ウ(イ) 音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

B鑑賞(1)イ 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。

(3) 題材の価値

本題材は、曲想を感じ取りながら、曲全体を味わって聴いたり、歌詞の表す様子や気持ちを想像して歌ったりする学習である。その価値は以下のとおりである。

様子を思い浮かべながら曲を聴いたり表現したりすることは、曲を捉える上で大切である。歌詞や聞こえてくる音から様子を思い浮かべながら聴くことは、曲想を感じ取ったり、様子に合う音を聴き取ったりすることにつながる。そして、感じ取ったり聴き取ったりしたことから、曲の捉えを深めて、曲に合った表現を工夫することにもつながる。場面の様子や気持ちに合わせて、聴いたり表現したりする中で、曲想に合った音色の表れ方に気付き、曲想と音楽を形づくっている要素との関わりを理解することができ、様子に合わせて演奏しようと工夫する中で、曲想に合わせて演奏する技能も高まっていく。

「そりすべり」は、馬の足音や鞭を打つ音などが子どもたちの身近な打楽器によって表現され

ており、馬ぞりが馬によって引かれる様子を想像することができる。中間部の後に表れるスウィングからは、馬ぞりが軽快に走っていくような楽しい曲想を感じ取ることができる。

「海とおひさま」、「小ぎつね」は、1～3番の中で、それぞれ違う様子や気持ちを表しており、歌詞から様子や気持ちを想像し、その変化を感じ取ることのできる曲である。同じ歌詞を繰り返している部分に注目し、歌詞の感じや曲想を生かした表現を工夫していく中で、語感を生かして歌う素地を養ったり、表現の工夫の仕方による曲想の違いに気付いたりすることができる。

それぞれの様子に合った表現の仕方があることに気付くことで、感性が豊かになり、様子を思い浮かべながら様々な曲を音楽表現したり鑑賞したりできるようになる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、3年「様子を思いうかべて」で、曲想を感じ取り、リズムを生かしたり、強弱を工夫したりしながら、発音に気を付けてのびのびとした声で歌う学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、1年「ようすをおもいうかべて」において、場面の様子を思い浮かべながら聴いたり、歌い方や鍵盤ハーモニカの演奏の仕方を工夫したりして、表情豊かに音楽表現をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

① 曲想から感じ取れる場面の様子や音色との関わりに気付いてきている。このような子どもたちが、曲想と歌詞の表す様子や音色との関わりについて気付けるように、グループごとのイメージと演奏を併せて発表する時間を設定する。

場面の様子を思い浮かべながら表情豊かに歌ったり、鍵盤ハーモニカを演奏したり簡単な音楽をつくったりできるようになってきている。このような子どもたちが、歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、声の出し方に気を付けて歌ったり、音色に気を付けて鍵盤ハーモニカを演奏したりすることができるように、歌詞に表れている様子や気持ちをまとめた模造紙を黒板に掲示する。

② 場面の様子を思い浮かべながら聴いたり、声の出し方や鍵盤ハーモニカの演奏の仕方、打楽器の組み合わせ方を工夫したりしてきている。このような子どもたちが、歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、声の出し方や音色、強弱、速度を工夫することができるように、歌詞に合わせて様子を真似しながら歌う活動を設定する。

③ 歌詞の内容に関心をもって、場面の様子を思い浮かべながら聴いたり音楽表現をしたりしようとしてきている。このような子どもたちが、曲想と歌詞の表す様子や気持ちとの関わりに興味をもち、聴いたり演奏したりする学習に進んで取り組むことができるように、歌詞の共通点を見付けたり、相違点を比較したりしながら、歌詞に合った工夫の仕方を試行する時間を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

1 ねらい 曲想を感じ取りながら曲や打楽器の音に合わせてペープサートや体を動かすことを通して、様子を思い浮かべながら演奏することへの見通しをもつ。

2 準備 ペープサート（馬、鞭、鈴、背景） 学習プリント

3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴のような音や、‘ポコポコ’という馬の足音のような音と、時々‘パチッ’という鞭のような音が聴こえてきたよ。 <p>2 場面の様子を想像しながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬の足音に混じって鞭の音がしているよ。鞭の音がする所はちょうど曲の真ん中くらいだったのだな。 ・‘ポッコポッコッ’とゆっくりな部分と、‘ポコポッコポコポッコ’とはずむ感じの部分があったよ。 ・友達の演奏するウッドブロックの‘ポッコポッコッ’という音に合わせて動いてみると、普通に走っている感じになったけれど、‘ポコポッコポコポッコ’に合わせると、スキップするような楽しい感じで動かなくなったよ。 ・馬の足音がよく聴こえるということは、やわらかい雪の上ではなくて、硬い地面の上を走っているのではないかな。だから、曲の真ん中の部分では、橋の上の背景を使うといいと思うよ。 ・馬ぞりの走る景色が変わっていくのに合わせて、曲の雰囲気も変わるのだな。ここは楽しそうなリズムだから、スキップするように馬ぞりを動かそうよ。 ・馬ぞりの走る景色が変わっているから、曲の雰囲気が変わるのだな。それを変えているのは、足音を表すウッドブロックのリズムや旋律が変わっていくからなのだな。 <p>3 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色に気を付けて聴くと、馬ぞりや周りの景色の様子を色々想像できるのだな。 ・想像しながら聴くと頭の中で映像が流れるようで楽しかったよ。様子を思い浮かべながら演奏してみると楽しそうだな。 	<p>○馬ぞりや周りの景色の様子を想像しながら聴くという本時の見直しをもてるように、「そりすべり」を全体を通して聴く時間を設定し、聴こえてきた擬音を問いかける。</p> <p>○曲の構成を視覚的に理解できるように、曲全体の音楽の流れを枠で示したものを黒板に掲示し、曲を流しながら、気付いた音や曲想の変化する所を書き入れる。</p> <p>○馬の足音を手がかりに、様子を思い浮かべられるように、足音が聴こえた部分で挙手をしたり、体を動かしたりするよう促す。</p> <p>○馬の足音の音の特徴と馬の様子を結び付けられるように、ウッドブロックの音に合わせて、馬の動き方を試行する時間を設定し、リズムを変えた時の動き方の変化を問いかける。</p> <p>○馬ぞりが走る周りの景色の様子を想像できるように、雪山や橋の上等の背景の描かれた画用紙を用意し、音楽の変化に合わせてイメージに合う背景を選ぶよう促す。</p> <p>○馬ぞりが走っていく様子とその際に表れる音色のつながりに気付けるように、背景に合わせてペーパーサートを相談しながら動かすよう促す。</p> <div data-bbox="767 1323 1401 1570" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">音楽に合わせてペーパーサートや体の動きを変えながら、馬ぞりが走る様子と音色との関わりについて気付き、記述したり発言したりしている。 <学習プリント・発言></p> </div> <p>○「そりすべり」を聴いて感じ取ったことと聴き取ったことにつながりに気付けるように、曲想が変化したように感じた理由を問いかける。</p> <p>○馬ぞりや周りの景色の様子を想像しながら聴き深められたことを実感できるように、それぞれが感じ取ったことを価値付ける。</p> <p>○様子を思い浮かべながら演奏するという題材のめあてをつかめるように、想像をしながら音楽を聴いたことよさを問いかける。</p>

指導と評価の計画（全6時間）

目標	曲想を感じ取りながら、曲全体を味わって聴いたり、様子や気持ちを想像して歌ったりする。				
評価 規準	<p>(①知識・技能) 曲想と歌詞の表す様子や音色との関わりについて気付いている。 曲想や歌詞から様子や気持ちを想像しながら、声の出し方に気を付けて歌ったり、音色に気を付けて鍵盤ハーモニカを演奏したりしている。</p> <p>(②思考力・判断力・表現力等) 様子や気持ちを想像しながら、声の出し方や音色、強弱、速度を工夫したり、曲の楽しさを見いだして味わって聴いたりしている。</p> <p>(③主体的に取り組む態度) 曲想と歌詞の表す様子や気持ちとの関わりに興味をもち、聴いたり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。</p>				
教材	<p>ア…そりすべり ルロイ アンダソン 作曲 変ホ長調 2分の2拍子</p> <p>イ…海とおひさま 高木あきこ 作詞 橋本祥路 作曲 ハ長調 4分の3拍子</p> <p>ウ…小ぎつね 勝 承夫 訳詞 ドイツ民謡 ハ長調 4分の2拍子</p>				
過程	時間	配分	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ	1	ア	○「そりすべり」を聴いて、『様子を思いうかべながら演奏しよう』という題材のめあてをつかむ。(本時)	○曲想と音色の関わりに気付けるように、鈴やウッドブロックの音に合わせて馬ぞりの動きを考える時間を設定する。	◇音楽に合わせてペープサートや体の動きを変えながら、馬ぞりが走る様子や音色との関わりについて気づき、記述したり発言したりしている。 <学習プリント・発言>
追求する	1	イ	○「海とおひさま」を、歌詞の様子を思い浮かべながら歌う。	○1～3番の海の様子と曲想のつながりに興味をもてるように、歌詞の共通点を見付けたり、相違点を比較したりしながら、歌詞に合った様々な表情で歌う時間を設定する。	◇曲想と歌詞の表す様子や気持ちとの関わりに興味をもち、歌っている。 <表現・学習プリント③>
	1		○「海とおひさま」を、曲想に合った歌い方で歌う。	○声の出し方や強弱の工夫を生かして歌えるように、時間の変化による海や波の様子や、その際の気持ちをまとめた模造紙を黒板に掲示する。	◇海の様子や気持ちを想像しながら、声の出し方や強弱の工夫を生かして歌っている。 <表現・学習プリント①>
	1	ウ	○「小ぎつね」を、歌詞の様子を思い浮かべながら歌う。	○1～3番の小ぎつねの気持ちや周囲の様子の変化に気付けるように、歌詞に合わせて小ぎつねの様子を真似しながら歌う活動を設定する。	◇歌詞の内容から、小ぎつねの気持ちや季節の移り変わりを想像し、声の出し方や強弱、速度を工夫している。 <表現・学習プリント②>
	1		○「小ぎつね」を、曲想に合った演奏の仕方でも鍵盤ハーモニカで演奏する。	○1～3番の場面の違いを出して演奏できるように、小ぎつねの様子に合わせて、繰り返しの部分を弾き比べる時間を設定する。	◇小ぎつねの様子や気持ち、季節の移り変わりを想像し、鍵盤ハーモニカの演奏の強弱や速度を工夫している。 <表現・学習プリント②>
まとめる	1		○「小ぎつね」を、歌と鍵盤ハーモニカを合わせて演奏する。	○小ぎつねの様子などと演奏とのつながりを実感できるように、グループごとの小ぎつねのイメージと演奏を併せて発表する時間を設定する。	◇小ぎつねの様子や気持ち、季節の移り変わりや曲想とのつながりについて発言したり記述したりしている。 <学習プリント①>